

スーパーマーケット販売統計調査資料

2019 年 6 月実績 速報版(パネル 270)

5 月実績 確報版(パネル 270)

(2019 年 7 月 23 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業 (DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年7月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年6月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	88,563,230	100.0%	100.9%	99.9%
食品合計	79,968,069	90.3%	101.2%	100.0%
生鮮3部門合計	29,818,712	33.7%	101.6%	100.3%
青果	12,182,745	13.8%	101.5%	100.4%
水産	7,488,455	8.5%	102.1%	100.7%
畜産	10,147,512	11.5%	101.4%	100.0%
惣菜	9,028,295	10.2%	102.4%	100.9%
日配	17,582,992	19.9%	101.5%	100.2%
一般食品	23,538,070	26.6%	100.0%	99.1%
非食品	6,332,504	7.2%	98.8%	98.4%
その他	2,262,706	2.6%	100.1%	100.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,107,714	43	100.7%	99.7%
関東地方	32,885,619	73	101.2%	100.3%
中部地方	10,899,460	53	102.0%	100.2%
近畿地方	19,087,030	44	99.9%	98.7%
中国・四国地方	8,824,093	34	102.3%	101.1%
九州・沖縄地方	4,759,313	23	99.4%	99.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	623,732	45	96.4%	96.3%
4～10店舗	4,098,000	78	97.7%	98.5%
11～25店舗	9,210,249	57	100.9%	100.4%
26～50店舗	16,195,153	46	100.9%	99.9%
51店舗以上	58,436,096	44	101.2%	99.9%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	86,047,179
総店舗数（店舗）	7,979	店舗平均月商（万円）	11,100
総売場面積（㎡）	13,281,545	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年7月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年5月実績 確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	89,734,324	100.0%	100.6%	99.7%
食品合計	81,349,117	90.7%	100.8%	99.8%
生鮮3部門合計	30,635,052	34.1%	100.7%	99.4%
青果	12,444,960	13.9%	101.1%	99.9%
水産	7,783,127	8.7%	101.2%	99.9%
畜産	10,406,966	11.6%	99.7%	98.5%
惣菜	9,348,767	10.4%	102.9%	101.4%
日配	17,802,801	19.8%	101.0%	99.8%
一般食品	23,562,496	26.3%	100.1%	99.6%
非食品	5,971,129	6.7%	99.2%	98.9%
その他	2,414,130	2.7%	100.5%	100.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,419,295	43	100.0%	99.3%
関東地方	33,397,021	73	101.2%	100.1%
中部地方	11,103,186	53	101.1%	99.8%
近畿地方	19,050,809	44	99.9%	99.0%
中国・四国地方	8,952,970	34	101.2%	100.2%
九州・沖縄地方	4,811,043	23	98.6%	100.0%

保有店舗数別集計

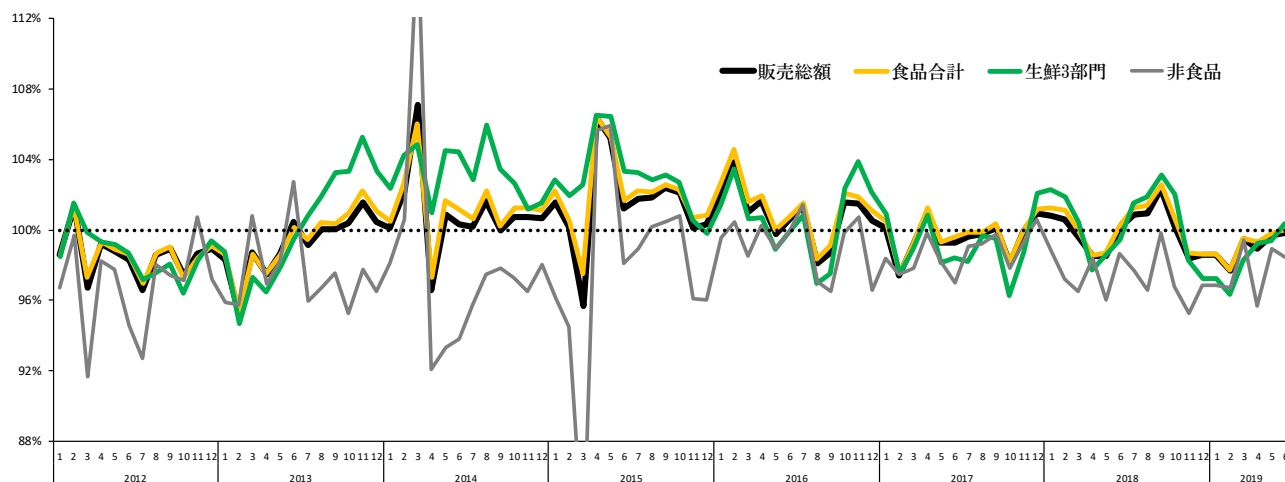
保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	638,536	45	96.0%	96.0%
4～10店舗	4,180,554	77	97.9%	98.5%
11～25店舗	9,438,418	58	99.7%	99.3%
26～50店舗	16,351,730	46	100.6%	99.6%
51店舗以上	59,125,085	44	100.9%	99.9%
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）		87,110,361
総店舗数（店舗）	7,977	店舗平均月商（万円）		11,249
総売場面積（㎡）	13,212,877	売場1㎡あたり売上高（万円）		6.8

※売上高は税抜金額

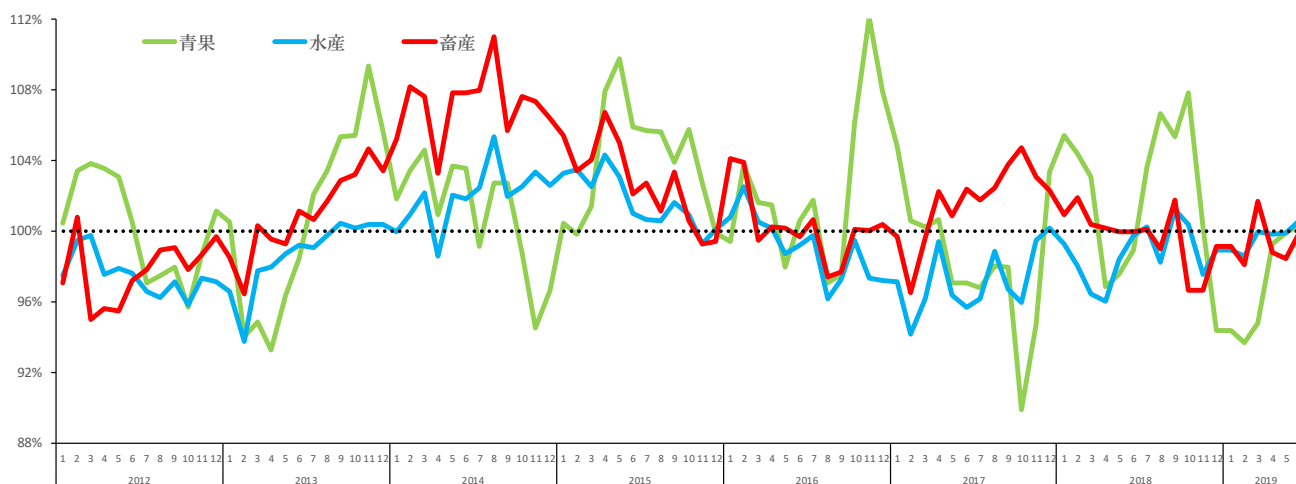
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

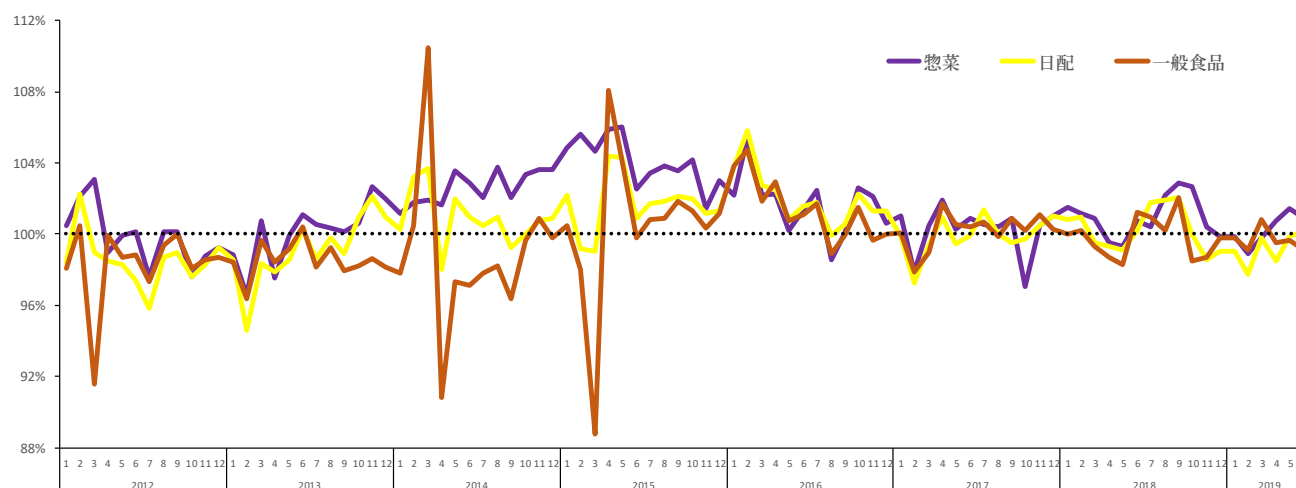
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年6月実績は速報値

2019年6月エリア別気候状況

6月気温の特徴：北日本の気温は高かった

上旬：北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。

中旬：東・西日本と沖縄・奄美で低かった。北日本では平年並だった。

下旬：東日本で高かった。一方、沖縄・奄美では低かった。

2018年6月との比較：上旬は前年並み、中旬は北海道で高く、下旬は東日本で前年より低くなった。

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2019年6月			2018年6月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	2.0	0.5	0.4	2.2	-2.2	0.7	-0.2	2.7	-0.3
東北地方	1.3	-0.5	0.5	2.1	-1.9	2.8	-0.8	1.4	-2.3
関東甲信地方	0.6	-0.4	0.7	1.7	-1.1	2.5	-1.1	0.7	-1.8
北陸地方	1.2	-0.5	0.8	1.2	-1.2	2.7	0.0	0.7	-1.9
東海地方	0.7	-0.4	1.1	0.9	-0.3	1.6	-0.2	-0.1	-0.5
近畿地方	1.0	-0.5	1.0	0.5	-1.0	1.6	0.5	0.5	-0.6
中国地方	1.1	-0.9	0.4	0.5	-1.2	1.5	0.6	0.3	-1.1
四国地方	1.0	-0.4	0.6	0.3	-0.4	1.0	0.7	0.0	-0.4
九州北部	1.1	-0.8	0.4	1.0	-0.4	1.1	0.1	-0.4	-0.7
九州南部・奄美地方	0.7	-0.9	-0.3	1.2	0.3	0.3	-0.5	-1.2	-0.6

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

6月日照時間の特徴：東・西日本の日照時間は多かった

上旬：北日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側では少なかった。

中旬：東・西日本太平洋側でかなり多く、東・西日本日本海側で多かった。

下旬：沖縄・奄美でかなり少なかった。一方、東日本日本海側と西日本では多かった。

2018年6月との比較：上旬はやや少なく、中旬は多く、下旬は東日本を中心に前年より少なくなった。

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2019年6月			2018年6月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	115	101	90	127	62	65	-12	39	25
東北地方	115	113	86	122	67	149	-7	46	-63
関東甲信地方	77	153	98	143	75	204	-66	78	-106
北陸地方	102	126	114	115	79	179	-13	47	-65
東海地方	84	158	117	126	94	160	-42	64	-43
近畿地方	88	137	130	105	84	156	-17	53	-26
中国地方	105	118	114	101	92	126	4	26	-12
四国地方	98	150	117	92	94	136	6	56	-19
九州北部	77	153	98	95	112	151	-18	41	-53
九州南部・奄美地方	80	138	74	89	92	119	-9	46	-45

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

6月降水量の特徴：北日本太平洋側と東日本で多く、西日本の降水量は少なかった

上旬：東日本太平洋側でかなり多く、東・西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。一方、北日本日本海側で少なかった。

中旬：北日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

下旬：北日本、東日本日本海側、沖縄・奄美は多かった。一方、西日本日本海側では少なかった。

2018年6月との比較：上旬は東日本で多く、中旬は中国地方で多く、下旬は東日本を中心に前年より多くなった。

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2019年6月			2018年6月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	42	128	102	88	282	299	-46	-154	-197
東北地方	93	131	177	36	98	93	57	33	84
関東甲信地方	265	101	103	98	131	41	167	-30	62
北陸地方	189	123	140	29	97	0	160	26	140
東海地方	195	85	109	150	151	64	45	-66	45
近畿地方	110	66	85	152	126	77	-42	-60	8
中国地方	155	112	65	117	0	69	38	112	-4
四国地方	50	113	109	107	162	71	-57	-49	38
九州北部	114	50	62	90	0	88	24	50	-26
九州南部・奄美地方	101	64	150	75	138	117	26	-74	33

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

気象庁ホームページ・報道発表資料「6月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2019 年 7 月調査結果（6 月実績）

（2019 年 7 月 23 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

7月調査（6月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通しともに小幅に悪化

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から-1.0 の 44.0、見通し判断は前月から-1.5 の 41.7 となり、共に3ヵ月連続で改善後に小幅な悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI、収益 DI 共に小幅に上昇し、マイナス幅を縮小した。青果相場が回復したことで生鮮仕入原価 DI が 3.4、値上げが相次いだ食品仕入原価 DI は 4.9 と共にプラス圏で推移していることで販売価格 DI が堅調であったことや、来客数 DI が日曜日の1日多い曜日巡りの恩恵を受け小幅に上昇したことが支えとなった。

カテゴリー動向調査では、青果相場の回復により青果 DI が-1.9 までマイナス幅を縮小したほか、アニサキスの影響が軽減した水産 DI が 0.9 と小幅ながらプラスになった。一方で、梅雨入りの遅れや最終週の気温低下で夏物商材が伸び悩んだ影響を受けたカテゴリーもみられた。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はいずれの DI も悪化をみせており、12ヵ月移動平均線に頭を押さえられる格好となって改善には一服感がみられている。（長期傾向については p 11 参照）

水産カテゴリーの回復や青果相場が安定傾向にあるなど売上回復の兆しがみられる一方で、梅雨明けの遅れによる夏物不振への警戒感も強く、見通し DI は慎重な見方が多い。なにより10月には消費税率引き上げが控えており、消費低迷に関する警戒感も強い。さらに他業態が価格攻勢を強めるなかで、どのように差別化していくか、対応が求められる状況となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月： **44.0** (-1.0)
前月：45.0

消費者購買意欲DI
当月： **42.8** (-1.7)
前月：44.5

周辺地域 競合状況DI
当月： **40.9** (-0.2)
前月：41.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月： **44.1** (-1.1)
前月：45.2

見通し判断

景気判断DI
当月： **41.7** (-1.5)
前月：43.2

消費者購買意欲DI
当月： **42.0** (-1.7)
前月：43.7

周辺地域 競合状況DI
当月： **39.9** (-0.3)
前月：40.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月： **43.6** (-1.0)
前月：44.6

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月： **-6.5** (+1.5)
前月：-8.0

客単価DI
当月： **0.4** (+0.7)
前月：-0.3

来客数DI
当月： **-9.6** (+1.0)
前月：-10.6

収益DI
当月： **-4.0** (+5.1)
前月：-9.1

販売価格DI
当月： **4.6** (±0.1)
前月：4.5

生鮮品仕入原価DI
当月： **3.4** (+0.9)
前月：2.5

食品仕入原価DI
当月： **4.9** (-1.4)
前月：6.3

カテゴリー動向

青果DI
当月： **-1.9** (+2.7)
前月：-4.6

水産DI
当月： **0.9** (+4.9)
前月：-4.0

畜産DI
当月： **-7.2** (+4.5)
前月：-11.7

惣菜DI
当月： **4.0** (-0.7)
前月：4.7

日配DI
当月： **-3.3** (+2.8)
前月：-6.1

一般食品DI
当月： **-7.9** (-0.2)
前月：-7.7

非食品DI
当月： **-8.7** (-0.6)
前月：-8.1

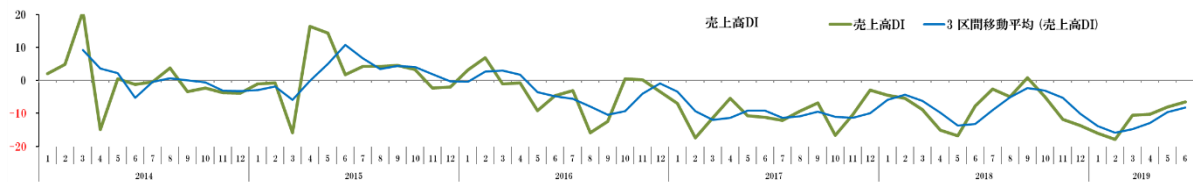
○ 内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高 DI

徐々にマイナス幅を縮小

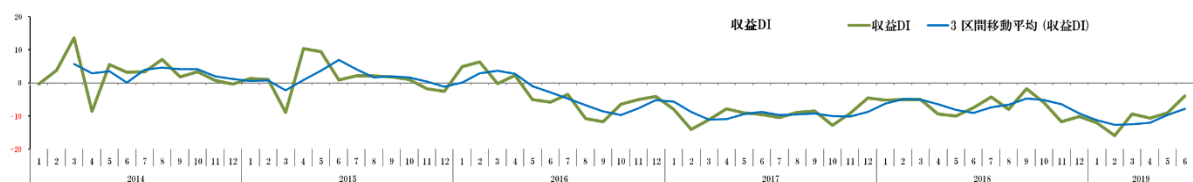
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	11.1	34.7	30.0	23.7	0.5	-8.0
売上高 (当月)	9.4	34.1	31.2	23.5	1.8	-6.5



2. 収益 DI

マイナス幅をやや縮小

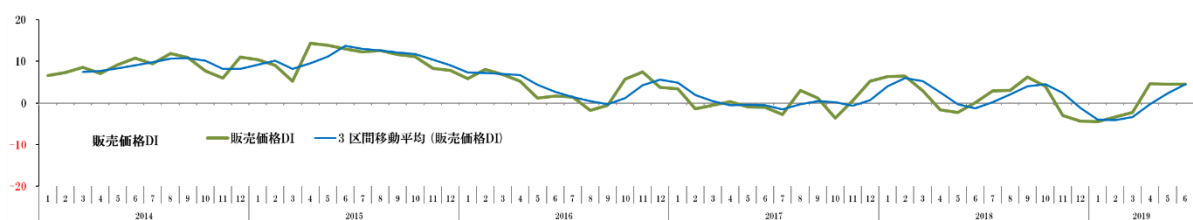
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	11.2	38.0	28.9	19.8	2.1	-9.1
収益 (当月)	7.1	32.1	36.3	18.5	6.0	-4.0



3. 販売価格 DI

前月から同水準を維持し、プラス圏での推移

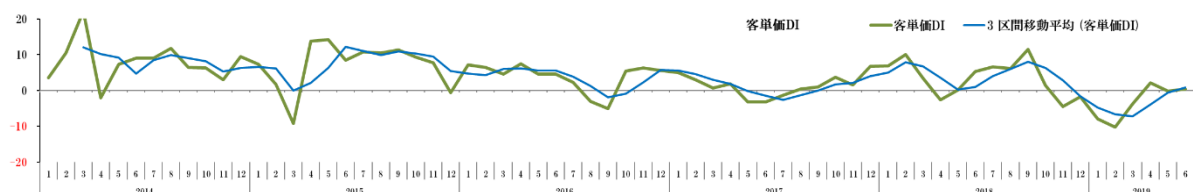
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	11.0	60.2	28.8	0.0	4.5
販売価格 (当月)	0.0	10.6	61.2	27.6	0.6	4.6



4. 客単価 DI

前年同月水準で横ばい推移

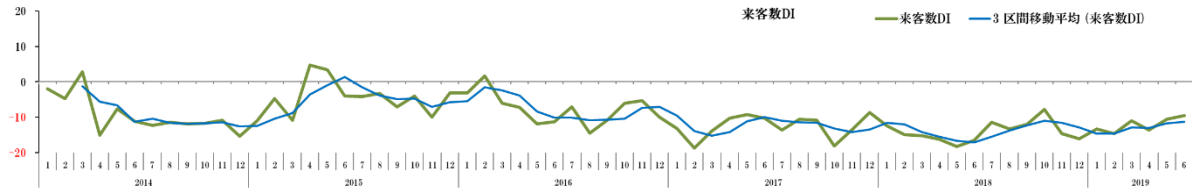
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.0	26.7	45.5	25.7	1.0	-0.3
客単価 (当月)	1.8	25.4	42.0	30.8	0.0	0.4



5. 来客数 DI

小幅上昇するも、マイナス圏で低迷つづく

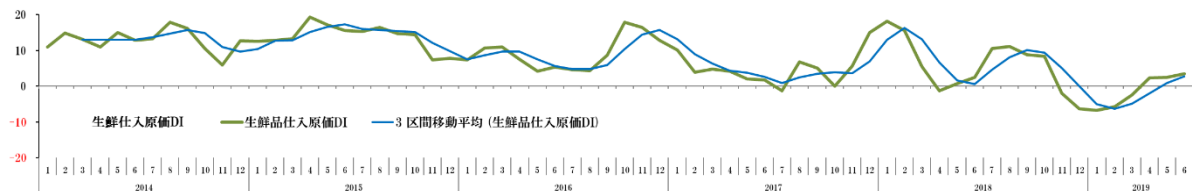
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.9	43.5	26.7	18.8	1.0	-10.6
来客数 (当月)	9.4	39.4	32.9	16.5	1.8	-9.6



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅に上昇し、3 か月連続でプラス圏

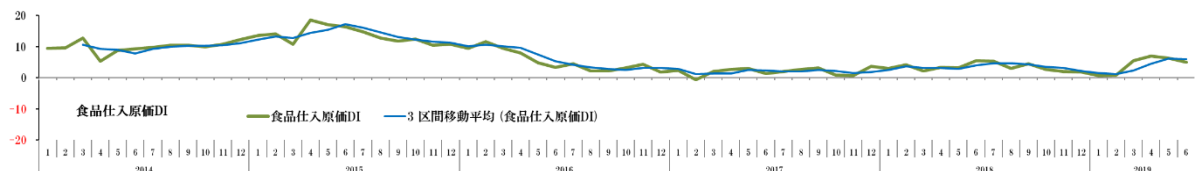
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.1	12.3	61.0	22.5	2.1	2.5
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	12.6	59.9	26.3	0.6	3.4



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏での推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.1	9.6	51.6	34.6	2.1	6.3
食品仕入原価 (当月)	1.2	13.7	50.0	34.5	0.6	4.9

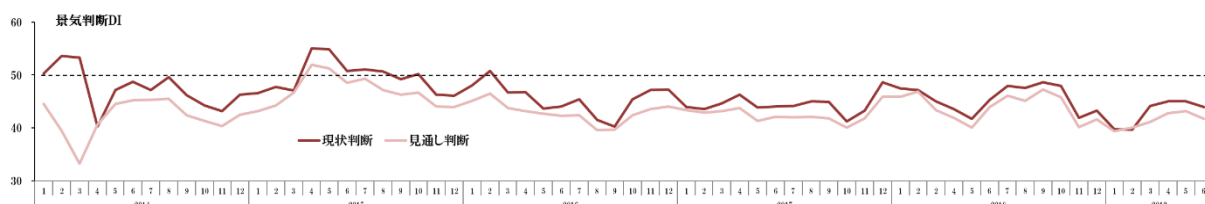


Ⅱ．景況感調査（2014年4月～／周辺地域景気判断 2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

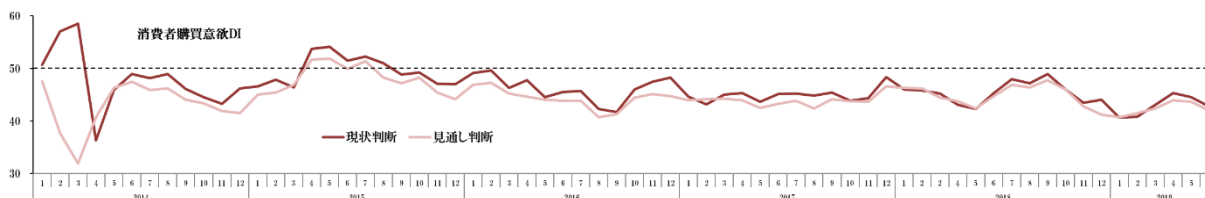
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	4.2	24.7	58.4	12.1	0.5	45.0
【現状】景気判断（当月）	3.5	27.1	59.4	10.0	0.0	44.0
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	5.9	25.0	60.1	8.5	0.5	43.2
【見通し】景気判断（当月）	4.7	31.4	56.2	7.7	0.0	41.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

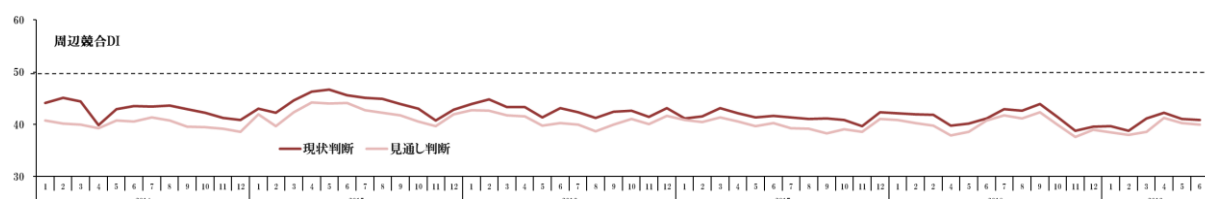
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	3.1	24.1	64.4	8.4	0.0	44.5
【現状】購買意欲（当月）	2.9	30.0	60.0	7.1	0.0	42.8
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	2.6	25.4	66.7	5.3	0.0	43.7
【見通し】購買意欲（当月）	3.6	31.4	58.6	6.5	0.0	42.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

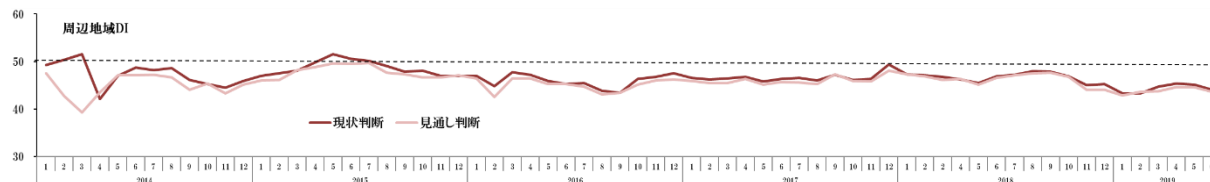
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	7.4	25.3	63.2	4.2	0.0	41.1
【現状】競合状況（当月）	6.5	27.6	61.8	4.1	0.0	40.9
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	7.9	25.9	63.5	2.6	0.0	40.2
【見通し】競合状況（当月）	6.5	30.2	60.4	3.0	0.0	39.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	22.5	72.8	4.2	0.0	45.2
【現状】地域景気 (当月)	1.2	22.4	75.3	1.2	0.0	44.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	24.3	71.4	3.7	0.0	44.6
【見通し】地域景気 (当月)	1.2	24.9	72.2	1.8	0.0	43.6



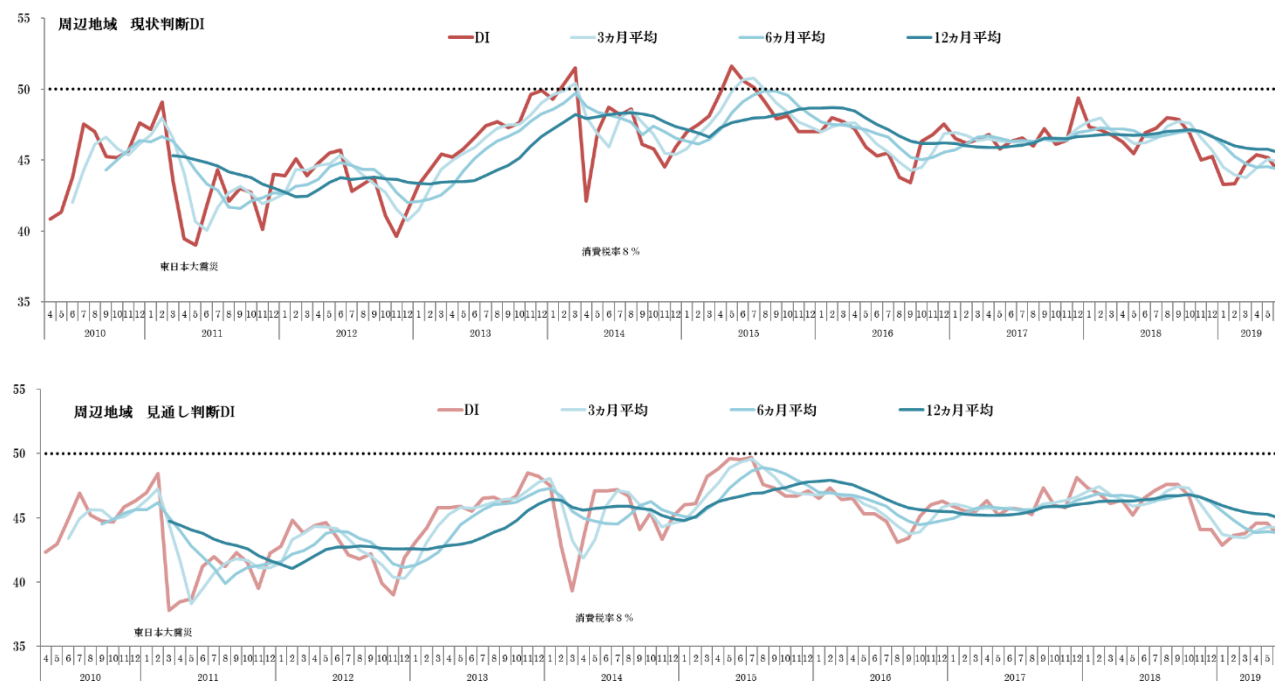
※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷が続いていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

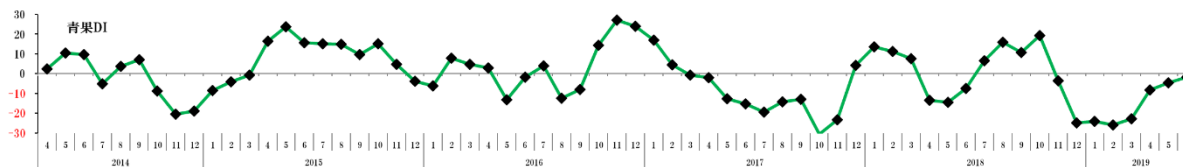
10月から再び悪化幅を広げ、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、以降弱含みの推移が続いた。3月以降は小幅ながらやや持ち直しの動きを続けたが、7月にやや弱含みとなっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-1.9（やや不調）

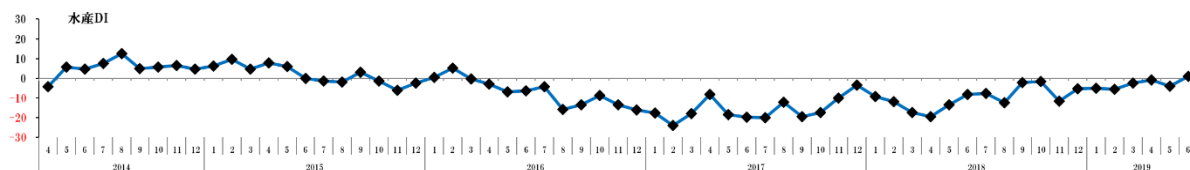
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	9.9	32.6	26.5	27.6	3.3	-4.6
青果（当月）	7.5	29.8	29.8	28.6	4.3	-1.9



相場は前年並みに戻りつつあり、全体的には青果カテゴリー持ち直し傾向が続いている。前年より気温が低かった地域では、トマトなどのサラダ類の動きが悪かった。春物の豆類（グリーンピース・スナップエンドウ）や菌類の動きが引き続きよかった。果物類では、キウイフルーツを中心に輸入フルーツは好調となっているが、不作のさくらんぼや出荷の遅れている桃が不調となった。スイカやメロンは気温により好不調がわかれた。アボカドは前年好調の反動がみられた。

2. 水産DI：0.9（やや好調）

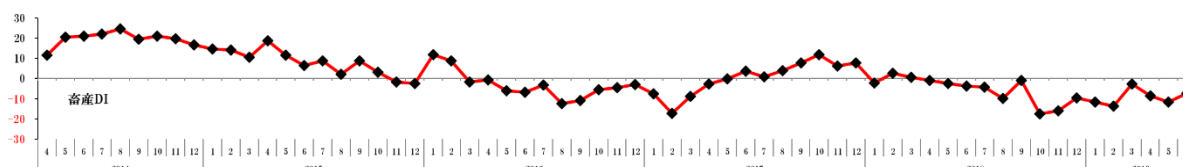
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	8.3	32.2	29.4	27.2	2.8	-4.0
水産（当月）	5.6	24.7	37.7	24.7	7.4	0.9



日曜日が一日多い曜日巡りに加え、前年に比べ水揚げがやや回復している魚種もみられ、カテゴリーではやや好調となった。好調となった店舗では、まぐろを中心に刺身類の動きがよく、旬魚であるアジやイワシも好調となった。かつおは価格高騰による不振とアニサキス報道の影響緩和による好調のコメントにわかれている。メディアによる健康報道のあった、めかぶなどの海藻類は引き続き好調となっている。鰻は高値が続いているが、販促により好不調がわかれている。

3. 畜産DI：-7.2（不調）

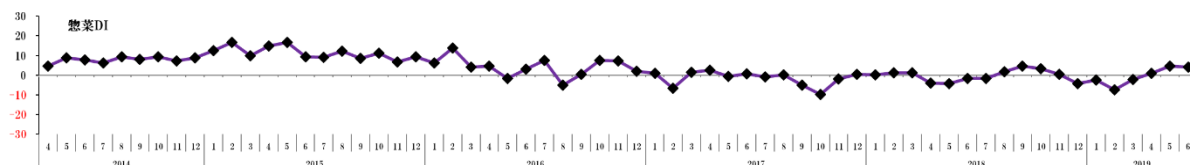
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	11.0	44.2	26.0	18.2	0.6	-11.7
畜産（当月）	11.0	33.7	31.3	20.9	3.1	-7.2



牛肉は前年に比べ気温が低めに推移した地域を中心にステーキ・焼肉用の動きが悪いほか、父の日を除き、和牛などの動きも悪く不調となった。豚肉は豚コレラの影響を受け国産の相場がやや高騰しているほか、前年との気温差により冷しゃぶ用や生姜焼き用が伸びず、不調となった店舗が多い。鶏肉は相場安で、販促を強化して好調となった店舗が多い。ハムを中心に加工肉は好調となった。

4. 惣菜DI：4.0（やや好調）

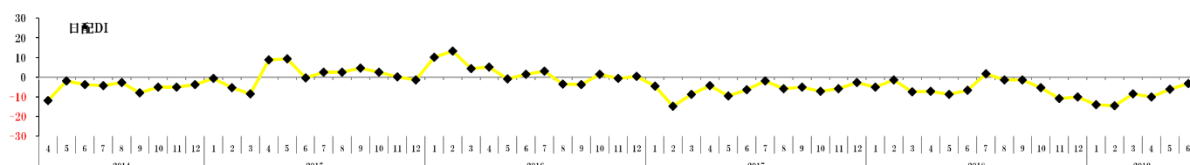
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.1	15.8	41.2	31.1	6.8	4.7
惣菜（当月）	3.1	21.1	41.6	24.8	9.3	4.0



父の日には、ごちそうメニューや寿司類が好調となった。天ぷらや揚げ物が好調な一方で、弁当類は動きが悪かった。新メニューや出来立て提供の取り組みが成果をあげる一方で、人手不足により十分対応できないことへの不安もみられた。夕方に雨が多かった地域では、ロス管理に苦心したとのコメントがみられた。

5. 日配DI：-3.3（やや不調）

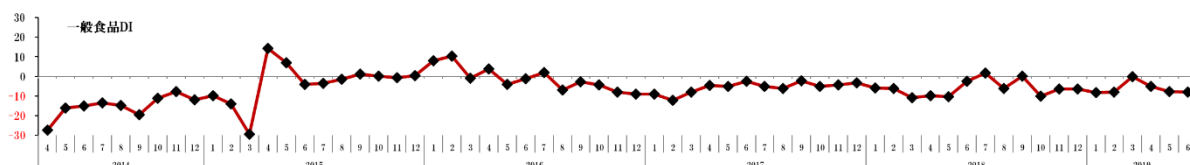
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	9.4	31.1	35.6	22.2	1.7	-6.1
日配（当月）	7.5	29.8	33.5	26.7	2.5	-3.3



前年より気温が低い地域では、アイスや飲料など涼味系商品、麺類などの動きが悪かった。漬物、こんにゃく、ところてんなどは、気温差により好不調がわかれている。一方で価格改定のあった乳製品やパン類などの洋日配カテゴリーは売上増となった店舗が多かった一方で、価格競争により不振とする店舗もみられた。カニカマなど健康報道関連の強化やオリジナル商品の投入など、競合との差別化に取り組んでいる店舗もみられた。

6. 一般食品：-7.9（やや不調）

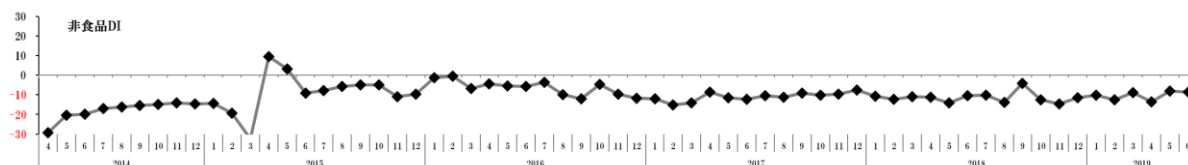
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.3	35.2	34.1	19.8	1.6	-7.7
一般食品（当月）	8.5	35.4	37.8	15.9	2.4	-7.9



最終週の気温低下の影響や、地域による前年との気温差の違いにより、そうめん関連などの涼味商材、飲料類や酒類は好不調まちまちとなった。米類は価格訴求が激しくなっており、不調となった店舗が多かった。乾麺には値上げの影響や駆け込み需要の反動減が大きかった。水産缶詰類は引き続き好調とする店舗が多い。梅酒関連商材は動きが悪かった。ドラッグストアとの価格競争を指摘するコメントがみられた。

7. 非食品 DI：-8.7（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	10.2	31.1	42.4	13.6	2.8	-8.1
非食品（当月）	13.3	29.1	39.2	15.8	2.5	-8.7



品薄状態となっている紙類が不振となった店舗が多い。夏物商材の殺虫剤や熱中症対策商品も動きが悪かった。電子タバコの売上が堅調とのコメントがみられた。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2019 年 7 月調査（6 月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一日多い
2. 平年より高い気温も前年より低い、梅雨時期の遅れ
3. 消費意欲減退

（参考）2018 年 7 月調査（6 月実績）キーワード TOP3

1. 土曜日が 1 日多い
2. 天候要因（気温上昇、例年より早い梅雨明け）
3. 来客数減

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6 月実績速報版 170 社
 5 月実績確報版 191 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp